関係部課へおまわし下さい				

本催しにご興味ありそうな方にご回覧頂ければ幸いです

2026年5月

JPI催しのご案内 2026 5

公益社団法人日本包装技術協会

― 2026年度の本催しについて ―

2026年度につきましても引き続きウェビナー（WEBセミナー）で皆様に情報発信をさせて頂きます。

●開催要領

日　時　①令和8年5月25日(月)　13:00～15:00
②令和8年5月28日(木)　13:00～15:00

参加費　JPI法人・個人会員：無料／一般：11,000円(1部会、税込)　**定　員**　300名

①令和8年5月25日(月)　13:00～15:00　JPI本部主催

【テーマ】拡大生産者責任(EPR)再考：包装資源循環の新時代を乗り切るために

拡大生産者責任は、1990年代に先進国から普及してきたリサイクル・廃棄物政策上の指導原則といわれる。しかしながら、誰の責任かを強調して概念化が進められた結果、何についての責任かについては解釈の余地を残すこととなり、異なる解釈・認識がされる結果となった。そこで本講演では、資源循環・廃棄物政策の責任論を振り返りつつ、拡大生産者責任の定義と6つの類型軸を確認する。そのうえで、どのような点で異なる理解がされているかを確認する。とりわけ日本では義務論としての責任論が強く、CSRのような社会的責任を果たして社会貢献を果たすという前向きな態度、まさしくカタカナでいう「レスポンシビリティ」という考え方としては捉えてこなかった。最後に、サーキュラーエコノミーの新しい時代を乗り切るためには、どのような受け止め・解釈を行い、この責任論をビジネスの展開戦略と融和させていくべきかの考えを提起する。

【講　師】国立研究開発法人国立環境研究所　資源循環領域　資源循環社会システム研究室　室長　田　崎　智　宏　氏

申　込　要　領

◆お申込は当会ホームページより、先着順とさせて頂きます。
◆お申込みが定員に達した場合、一社における参加人数に制限を持たせて頂く場合があります。
◆お申し込みは、JPIWEBフォーラム開催3日前までにお願いします。

個人情報の取扱いについて

1）個人情報は『公益社団法人日本包装技術協会　JPIWEBフォーラム』の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに当会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させて頂きます。
2）参加申込によりご提供頂いた個人情報は、法令に基づく場合等を除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。

参加申し込み方法と注意事項

・本催しはwebを使用したオンライン講演会（ウェビナー）です。
　お申し込みは、当会ホームページのJPIWEBフォーラム参加申込ページよりお願い致します。申込者にはウェビナー開催の２日前頃に招待メールをお送りします。**メールアドレスの入力を間違えてしまうと登録できずメールを送付できません**のでご注意ください。
・招待メールにて **参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項** をお知らせしますので、ご確認の上参加の準備を進めて下さい。
　※ご利用のメールアドレスの環境・設定によっては迷惑メールに振り分けられる場合がございますので、ご注意下さい。
・申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1名しか参加できません。
・その他注意事項などにつきましては当会ホームページ上よりご確認の上、参加登録をお願い致します。

当会ホームページ URL：https://www.jpi.or.jp/

◆お問い合せ及び各種催しの申し込み先◆
〒104-0045　東京都中央区築地4－1－1　東劇ビル10F
公益社団法人日本包装技術協会　担当：坂本　TEL.03-3543-1189　FAX.03-3543-8970
●JPI催しのご案内はインターネットでも公開中です。　URL https://www.jpi.or.jp/

JAPAN PACKAGING INSTITUTE

◆裏面にもウェビナーのご案内がございます◆

② 令和8年5月28日（木）　13:00〜15:00　JPI本部主催

【テーマ】包材が乾燥剤の吸湿挙動に与える影響の比較評価　〜吸湿速度の観点から見た安全性と実用性〜

乾燥剤を用いた防湿防錆包装設計では、JIS規格に基づく吸湿量が主な設計指標とされている。小袋の透湿性については当事者間の取り決めに委ねられており、吸湿速度に関する具体的な基準は示されていないため、設計上の盲点になりやすい。一方、市販乾燥剤の多くは不織布やフィルムなどの包材で個包装された状態で供給されており、包材の透湿特性の違いが実際の吸湿挙動に影響を及ぼす可能性がある。本講演では、A形シリカゲルを共通の乾燥剤とし、透湿構造の異なる複数の包材を対象に実施した静的吸湿試験および動的吸湿試験の結果を報告する。包材構造による吸湿速度の差異と、その差異が初期応答性や包装設計上の安全余裕に与える影響について、実務的な観点から考察する。

【講　師】日本化工機材株式会社　技術部　化成品技術グループ　アシスタントマネージャー　　高　橋　裕　美　氏

技術士包装物流会からのご案内

技術士包装物流会主催：5月度研究会のお知らせ

テーマ：企業で活躍する技術者が考えるLCA・リサイクルへのアプローチ

LCA、リサイクルのような課題は一企業ではなく包装業界が一丸となって取り組まなくてはいけません。今年技術士包装物流会はフィルムメーカー、ブランドオーナーの3人の方々に本テーマの講演をお願いしています。この講演は今後私たちが進む参考になると思います。
本テーマ講演は５月, ７月, ９月に実施予定です。今回は５月講演のご案内になります。
参加費は各回１人2000円。リアル以外にTeamsでも行われます。各講演の申し込み詳細は、各回開催の２か月前に公式サイトで告知予定です。https://www.jplcs.com/

日　時	2026年5月11日（月）　15：00−16：30
場　　所	きゅりあん会議室（(東京都品川区東大井５－18－１／大井町駅 徒歩約２分)）＋WEB配信
演　　題	包装材料設計へのLCA活用
講　　師	東洋紡株式会社　フイルム企画管理総括部　フィルムマーケティング戦略部　マネジャー　清水　敏之様
内　　容	今後の環境負荷低減と顧客価値創出を両立するためには、Scope3カテゴリー1（原材料起因の温室効果ガス排出）削減への対応力が企業・製品の競争力を左右します。その鍵となるのが設計段階でのLCA活用です。LCAでは、①評価対象の包装仕様の設定、②原材料・物質量収支・輸送などのデータ収集、③CO_2排出量算定、④結果から抽出されるホットスポットへの改善案を検討します。こうした定量評価は、環境負荷低減だけでなく、コスト削減や顧客提案力強化にもつながります。講演では包装材料や設計におけるScope3削減の可能性と、具体的なLCA手順を単純化した事例でご紹介します。

※7月、9月度の研究会の詳細は別途、案内いたします。
お問い合わせ先：担当　成田淳一 宛　Junichi.Narita@rmtohcello.com